

平成27年 第3回黒部市総合教育会議 議事録

開会年月日 会場	平成28年2月26日(金) 午前10時00分 黒部市役所 第2委員会室
出席者 (6人)	市長 堀内 康男 教育委員 村田 聖士(委員長)、大丸 勝男(委員長職務代理者)、 川崎 正美、水野 恵子、能澤 雄二(教育長)
出席職員 (13人)	<市長部局> 総務企画部長 柳田 守 総務課長 長田 行正 総務課 課長補佐 行政係長 越 雄一 <教育委員会事務局> 教育部長 瀧澤 茂宏 事務局次長・学校教育課長・給食センター所長 御囲 泰晃 事務局次長・生涯学習課長 飯野 勉 スポーツ課長・フルマラソン推進班長 魚谷八寿裕 図書館長・図書館構想推進班長 中谷 松憲 こども支援課長 霜野 好真 学校教育課 学校教育班長 尾村 国昭 生涯学習課 社会教育班長 横山 栄人 生涯学習課 ジオパーク推進班長 西中 雅博 学校教育課 課長補佐 庶務係長 神保 竜
会議開始	午前10時00分
事務局 (学校教育課長)	只今から平成27年度第3回黒部市総合教育会議を始めます。はじめに市長からご挨拶いただきます。
市長	皆さんおはようございます。本日は第3回黒部市総合教育会議を招集しましたところ、ご多用の中お集まりいただき、ありがとうございます。昨日も定例教育委員会ならびに教育文化表彰ということで、連日ご苦勞様でございます。今日はこの会議も3回目ということで、教育大綱を本日決定したいと思っております。皆さん方も教育委員会等で、詳細について議論されていると伺っております。是非、今日の決定になりますようお願い申し上げます。皆さん方には大変貴重な時間ではありますが、せっかくの機会でもありますので、忌憚の無いご意見を頂きたいと思っております。
事務局 (学校教育課長)	続きまして次第の3番、協議に移ります。会議の進行は、市長にお願いしたいと思います。
市長	本日の協議事項は1件、「教育大綱(案)について」であります。内容等について事務局から説明願います。

はじめに、これまでの経過を簡単に申し上げます。まず、昨年8月27日に第1回総合教育会議が開催され、その後11月27日に第2回会議が開催し、大綱の骨格等について意見等をいただいております。また、補助的な協議の場といたしまして、5、6回定例教育委員会会議においても詳細な議論を重ねてきたところであります。

資料1をご覧ください。今回の大綱(案)は、前回提示した案と今回提示する案とを比較できるような新旧対照表の内容としております。前回の総合教育会議の議論を踏まえまして、その後2回の定例教育委員会会議、教育振興協議会におけるご意見を反映させまして、最終の教育大綱(案)として取りまとめたものであります。

それでは前回と大きく変わった点を中心に教育大綱(案)の説明をしたいと思います。

「1 大綱の策定」

スポーツの記載が漏れておりましたので、「黒部市の教育、学術、文化、およびスポーツの振興に関する総合的な施策について基本的な方針を定めるものとする」と改め、なお書きの部分は、留意事項でありますので削除しました。

「2 大綱の位置づけ」

変更はなく、当初案どおり総合振興計画と教育の方針の中間な位置づけることとしております。

「3 大綱の対象期間」

最初の対象期間を平成27年から平成29年までとし、第1次総合振興計画の期間に合わせております。以後、第2次総合振興計画の前期計画、後期計画の期間に合わせております。

「4 大綱の理念」

大綱の理念は『未来(あす)の黒部を育む「人」づくり』とし、黒部市の教育の方針との整合性を図った大綱としております。「人」と「教育」をキーワードとし、記載の5つの視点から人づくりを推進していくものでございます。

「5 理念を達成するために ～「人」づくりの基本目標～」

教育の方針の各施策分野と連動させております。

(1) 家庭・地域教育を通じた人づくり

内容については変更ありません。

(2) 学校教育を通じた人づくり

①は記載のとおり「学校、幼稚園、こども園等の円滑な運営」と改め、1)は富山県幼・小・中学校教育指導の重点という指導書の表現に合わせ、「創意工夫のある教育活動」から「創意工夫を生かした教育活動」に改めております。2)「開かれた学校(園)づくり」から「開かれた学校、幼稚園、こども園づくり」に改めております。

②確かな学力の4)「児童生徒誰もが」から「児童・生徒が」と改めております。

③国際化教育の2)「魅力的なプログラム」とありますが、何のプログラムか分かるように「魅力的な教育プログラム」と改めております。

④特別支援教育～⑨安全までは変更はありません。

⑩教育環境の整備の1)「安心・安全な」から「安全・安心な」と改めております。

(3) 社会教育・生涯教育を通じた人づくり

①生涯学習機会の1)「図書館、公民館等の社会教育施設の充実」から「社会教育施設の充実」と改めております。

②青少年の健全育成の2)「自然や科学への興味を育てる」(吉田科学館の有効活用)から「自然や科学への興味・関心を育てる」(社会教育施設の有効活用)と改めました。

③変更はございません。

(4) 芸術・文化を通じた人づくり

①市民文化活動の推進の1)「文化・芸術にふれる」を「芸術文化にふれる」と改めております。3)は、～をするという記載の表現に改め(企画事業の充実→企画事業の充実を図る)、括弧書きの「(芸術文化・科学教育の充実)」も追記することとしています。

②文化遺産及び自然遺産の保護活用の2)、こちらも～をするという記載の表現に改め、「立山黒部ジオパーク事業の推進」から「立山黒部ジオパーク事業を推進する」と改めております。

(5) スポーツを通じた人づくり

①～④までは変更ございません。

⑤健やかな子どもの育成とスポーツの充実については、運動・スポーツ好きの育成やスポーツクラブ、運動部活動を行う環境整備の必要性から新たに1項目を追加しました。

1) 体力づくり、運動習慣化を推進する(運動・スポーツ好きの育成)

運動、スポーツ好きの子どもを育成するため、学校、幼稚園、こども園、保育所、地域、家庭、関係機関と連携し、子どもの体力向上を図ることをねらいとして新たに追記しました。

2) 子どもたちのスポーツクラブ、運動部等の充実を図る(環境整備と指導者の育成)

幼児、児童、生徒のスポーツクラブ、運動部等の活動を行うための環境整備、地域のスポーツ指導者の人材活用が求められていることから新たに追記することとしました。

6 当面の課題と取組

「当面する重点施策」としていましたが「当面の課題と取組」に改めました。内容は、前回のこの会議において、簡潔な説明を付けて整理すればよいのではないかというご意見も頂きましたので、

- (1) 学校再編計画の推進、
- (2) 学校施設の整備(新築・大規模改造)
- (3) 地域に根ざした図書館の建設
- (4) 立山黒部ジオパーク世界認定への取組
- (5) 2020年東京オリンピック事前合宿誘致活動、

この5項目に整理し、内容についてはそれぞれ記載のとおり整理させていただきました。説明は以上でございます。

市長

只今説明がありました教育大綱の内容について、ご意見等ありますでしょうか。何度も検討いただいているとのことですが、発言があればお願いしたいと思います。

委員長

第2回総合教育会議のあと、毎月の定例教育委員会においても、より良い大綱となるよう協議、議論してきました。最初は、大綱の体系図にある具体的項目の部分で、言葉の意味との違和感というものを感じていました。そこで、改めて教育大綱とはどういうものなのかについて考え直した経緯があります。その結果、市の教育行政の方向性を指し示す「理念」と、理念を達成するための「目標」を掲げるということで整理しました。そして、その目標を達成するための具体的な事柄は、大綱と連動する「教育の方針」という流れになるということでもあります。このほか、中身の細かい言葉の修正を行ってきました。今回の大綱(案)については、教育委員会としては、これでよいのではないかという思いでおります。

市長

わかりました。では、原案のとおり決定したいと思います。最後のページ、「(6) 2020年 東京オリンピック事前合宿誘致活動」の部分で、オリンピックのあとに「パラリンピック」という言葉を入れてください。

その部分を修正することで、原案のとおり決定することによろしいでしょうか。

(了承)

市長

それでは、これで黒部市教育大綱として決定をさせていただきます。

次に、意見交換に移ります。先日平成28年度の予算発表もさせていただきましたので、その時の資料を配っておりますが、質問等がございましたらそれを話題として意見交換をさせていただければと思います。

委員長

平成28年度予算については、以前、いくつか要望させていただきましたが、中学生姉妹都市交流研修事業費やスタディ・メイトの拡充など、要望どおりに予算に生かしていただきまして大変感謝しております。正式には決まっていますが、教育委員会としても、この予算を有効に生かして進めていきたいと思っております。

少し話は変わりますが、先日、総務文教委員会と意見交換会をさせていただきました。

その時に中学校再編の話もありまして、中学校が2つになって、通学の問題が大きいと感じています。教育委員会でもスクールバスについて検討はしていますが、議員さんからの意見で、一番気になったのは子ども達が自分の意思で自立して通学できるような体制が大事だということでした。当然、通常の通学ではバスを利用することになりますが、部活動などで特に土日などでは、おじいちゃん、おばあちゃんも含め、両親が車で送り迎えする現状があります。なかなか教育の方の対策だけでは難しいこともあります。

先日、YKKの吉田会長が観光についての話をされていまして、公共交通機関の重要性について言われていました。確かに私も大阪からこちらに引越してきた時には、寮生活をしながら移動の足、車がないとどこにも行けないという状況でありました。今はだいぶ変わってきてはいますけど、観光にしても、子どもたちの通学にしても、通常の時間ではなく、イレギュラーの時の通学手段について、もう少し選択肢を増やすことができればと思っております。公共交通ということになると、教育委員会、行政だけでは難しいことだとは思いますが、考えていかななくてはならないことだと思っております。私からは以上です。

市長

中学校統合後の通学の件については、土日の部活や夏休み期間中の通学とか部活動のそのような移動手段については、随時というわけにはいきませんが、一定のルールを決めて送迎用のスクールバスみたいなものを運行していかなければいけないと考えています。あるルール、朝何時と何時に学校に行けるバスがあるとか帰りも何時と何時にバスが出るということぐらいはしていかなければいけないと考えています。随時というわけには当然いきませんが、長期の休み期間、土日などはルールを設けて運用していく必要があると思っております。

それから、地域における二次交通はとても重要なことだと考えております。新幹線開業を契機に新幹線の駅からあいの風富山鉄道黒部駅までの「新幹線市街地線」を運行や、4月からは、新幹線の駅から生地方面、YKKさんの荻生工場を経由する運行ルートを予定しております。また、去年から、「石田・三日市循環線」の運行を開始しまして、市の全体からすると公共交通のカバー率は高くなっております。村椿、荻生、大布施など

は路線バスがなかなか組めないということもあり、予約制のデマンドタクシーということで、500円でタクシーが乗れるというような仕組みで対応しております。

しかしながら利用が増えておりません。皆さん「やればいいね、やればいいね」と言うけれども、現実として利用してもらえるのかということとそうでもない状況であります。

うまくいっているのは、「生地・三日市循環線」です。1日平均80人の利用があります。このくらいだと何とか継続できます。「石田・三日市循環線」は、最初は意識して利用いただきましたが、現在は、1日平均30人程度となっており、経営的には厳しい状況です。「周辺エリアの人口は6,000人ですので、200人に1人しか利用していないわけで、少なくとも倍の100人に1人利用があると、路線の維持はできると考えております。

ですから、1日100人に1人というような数値目標をしっかりと意識していくことが、非常に大事になってくると考えております。

では、数値目標はどうすれば達成できるのか、どんな人が乗ればいいのかということでもあります。子ども、学生、お年寄りの方が中心にはなりますが、それだけでは、目標達成は難しいと思います。やはり一般の社会人、それと通学以外の部活などの生徒や学生だと思います。また、YKKさんをお願いして、新幹線の駅から荻生工場へ寄って、生地工場へ行って生地駅に行くようなルートを4月から予定しています。今まで新幹線で来られたらお客さんを会社の車で送迎したり、タクシーで移動したりしていた人達が、出来るだけバスを利用するというのもお願いしております。

それから、バスは「いつ来るか分からない」ところがあります。3月補正で予定していますが、スマホで時刻表とバスの位置が分かるシステムを実証実験を予定しております。「いつ来るか」、「どこに来るのか」、「どこを走っているのか」が分からないままでは、利用者は増えないと思いますので、スマホを活用して若い人にも利用の利便を高めていきたいと思っております。

次に、富山地方鉄道が新設した新黒部駅は、予想以上に利用者は増えております。8月の夏休み期間中は1日平均1,000人。夏休み期間中外でも1日平均700人。富山地方鉄道で平均700人は大変立派です。昨日もどこかで話があったけれども、富山地方鉄道の新黒部駅に女性のアテンダントがおりまして、大変素晴らしい一流ホテル並みのアテンダントということで話題になっております。乗るときに「どちらへ行かれますか」と聞いて、宇奈月方面だったら、要は泊まるホテルを聞いて、片道切符を買えばよいのか、往復を買えばよいのかを聞いてくれる。例えばそのホテルを聞いて、「そのホテルだったら帰りは送迎バスが出るから、片道でいいでしょう」「そのホテルだったら帰りは送迎バスが出ないから、往復切符を買われた方がいいですよ」とすぐに教えてくれる。こちらの方面に行くなら、どのようにすればよいか、全部頭に入っていて、1人1人に言っている。大変素晴らしいということで、富山市出身の北村森さんも褒めていました。

委員

以前、テレビ番組で地鉄沿線を紹介されたことがあって、電車を降りた人がその方に説明を受けている場面がすごく感じがいいということ番組でも言っていました。

市長

二次交通を利用する生活ということ意識する。YKKさんも、今まで車でしか利便がない場所に寮をつくっておられましたが、考え方を改めて、公共交通を利用させるには寮の場所を変えなければいけないということに取り組んでおられます。私たちも、そういうことを意識して、ものごとに取り組んでいく必要があります。

委員長

今は、マイカー有りきで、公共交通が無いのが前提で皆さん生活されていると思いま

す。マイカーがなくても、生活が成り立つ、立ち行く環境をつくっていかねばなりません。

市長

観光客の利便だけでなく、ビジネス客の利用も大事だと思っています。黒部宇奈月温泉駅の乗り降りではビジネス客の割合が、他市の先進事例より非常に高くなっています。

これまでは、九州新幹線の熊本市での35パーセントが高い方でしたが、黒部市では50パーセントとなっています。新幹線を降りた後の移動手段というものをしっかりと構築しておくことが、子どもたちや一般の人たちの利便にも繋がっていくと考えられます。

たくさんの人に利用されることによって、路線も増やせるという好循環が生まれることも考えられます。利用促進策の一つとして、高齢者に配布している「ふれあい福祉券」がありますが、額面の半分となる1,000円分をバスの券にしようと考えており、2次交通の安定に向け、あらゆる方向から取り組んでいきたいと思っています。

委員

映画の話ですが黒部市が舞台となった「カノン」の公開を非常に楽しみにしています。

映画に出てくるシーンが印象に残って、ロケ地に行ってみたいという人も結構いると思います。以前「RAILWAYS」がありましたが、その時は下立で撮影がありました。最近では新湊で「人生の約束」が話題となっており、やはりロケ地として訪れる方もおられます。映画のシーンで使われたところをうまく絡めながら山・川・海を繋いだ黒部ならではの観光スポットが出来ればよいと思います。

市長

私は「人生の約束」も「カノン」も見ましたが、カノンでは、黒部市が本当に色濃く出ていました。「人生の約束」もいい映画でしたが、「カノン」は、黒部をPRするという意味では、非常にインパクトがあるような気がしました。これだけ黒部を撮ってくれた映画というのは過去に無いと思います。黒部峡谷の人食岩のシーンや市庁舎、市民病院、牧場、生地の花火や夕日のシーンなど、万遍なく出てきます。

委員

黒部には、見どころがたくさんあるということを、市民自身をもっと知らなければいけないと思います。あまりにも、見どころが多く、身近過ぎて自分自身が気がついていないこともあると思います。子どもたちにはふるさと教育を通して、どんどんと教えていかなければならないとおもいます。やがてUターンにも繋がっていくと思います。

例えば、ジオパークについても様々な取組がありますが、子どもたちにどうやって伝えていくのかということ。また、図書館や科学館、新幹線駅の観光ギャラリーなど、うまくタイアップしていくことも大事だと思います。

戸出さんの大作「黒部川」が戻ってきた時がありましたが、その時、美術館に展示されていたのですが、宇奈月の子供たちが知らないのはまずいと思ひまして、バスで行ったことがあります。生で見る、感じるということが子どもにとってはすごく大事なことです。良いものがあるということ伝える、そして黒部市民が知ることが大事だと思っています。

市長

今のご意見は、同感であります。地元が気がつかなくなったり、地元の人を楽しんだりしていないものは、絶対に外の人には売れない、うけないと思っています。地元の人から自慢して嬉しくて、そこに参加しているようなものは、必ず外の人にも受け入れられると思っています。観光客向けに何かやるということは、全部薄っぺらで長続きはしない。1回キリ、2回キリで終わってしまいます。ジオパークについては、学習というよりも

自然の姿、偉大さが伝わるように、理科の授業とは違った興味を持ってもらえるように楽しくしていかなければいけないと思います。吉田科学館のプラネタリウム、来月には完成しますが、1つのいいチャンスだと思っています。

委員

プラネタリウムはとてもいいですね。小学校4年生は必ず行きますから、そういうことはきちんとずっとやっていただいているので、やっぱりそれで興味を持つ子はたくさんいます。宇宙が好きになる子やジオパークに興味を持つ子も出てくると思います。

委員

この話とは別ですが、先日高志野中学校の体育館の竣工式があった時に伊東与二先生の講演がありました。その後、生徒からの質問が大変多かったことが印象的でした。伊東与二先生も「こんなに質問が出てくる学校はめずらしい、初めてだ」と言われていたくらい質問がどんどん出ていました。私もこの3年間、授業を見学してきましたが、黒部市は結構質問する生徒が多いところだと思いました。英会話科の影響なのか、そのあたりは分かりません。

最近の新聞で、音大生が見直されているという記事がありました。音大は1対1で教授と勉強して、例えばコンサートをする時は他人とのコミュニケーションを通じていろんな折衝も行う。非常に企業人としてのコミュニケーションをすごく身につけられる場だということでした。特に高志野中学校では、合唱がすごく盛んなので、パートリーダーを作って指揮者が全員を指揮するという姿を見ていると、これはもしかして英会話科と競い合えるくらいいい環境ではないかと思いました。最近では、スクールバスでの送迎によりコーラレで開催されていますが、出来れば学校単位でやっているものを全部で発表会ができないものかと思います。全学校全学年が難しいようであれば、例えば3年生だけというような環境づくりもあってよいと思います。

市長

質問が多いことと英会話教育とは何か関係がありますか。

事務局
(学校教育班長)

今、大丸委員さんが言われましたが、英会話科も確かに効果はあると思いますが、むしろ合唱の取組が非常に有効に働いているのではないかと思います。私は高志野中学校に17年間勤務いたしましたが、合唱を通じた子どもたちの自主的な活動に力を入れている点が素晴らしいと感じておりました。伝統として、高志野中学校の柱となる取組になっておりまして、脈々と今も続いていることはとてもいいことだと思います。そういうものが臆せず前に話そうという力、意欲に繋がっていると思います。

市長

現在、中学校の合唱コンクールの開催状況はどうなっていますか。

事務局
(学校教育班長)

合同開催については、現在のところございませんが、各学校で1年生から3年生の全学年がコーラレに集まって発表しております。良い点としては、先輩の3年生達の素晴らしい合唱を見て1年生も意欲が湧くということです。他校の合唱を見たり聞いたりすることも確かによい刺激となると思います。

教育長

小学校の音楽会は、5、6年生が参加しております。市内10校を5校に分けて、2年に1回当番がまわってくるという開催方法です。市内4つの中学校、私は全部聴かせてもらいましたが、やはり班長からありましたように、1年生と3年生では全く違います。明らかに1年、2年、3年となるごとに上手になるということが、私みたいな素人でも

十分に分かります。

委員長

練習を通じて合唱コンクール本番までの間に、かなりのチームワークというか、連帯感というか、子どもたちにとっては、運動会と並んで印象に残る行事だと思います。

委員

年末にコラーレでロシアからのバレエを見せていただきました。席は満席でしたが、ほとんどのお客さんは年配の方で、小中学生は少なかったように感じました。せっかくコラーレやセレネがあって、芸術鑑賞をする場所と機会が与えられているのに、子どもたちが少ないと思いました。

コラーレのような素晴らしい施設があっても、どうやって利用するかということだと思います。芸術文化がなかなか広がらない。子どもでもよく分かるものでしたら、小学5、6年生を集めて見せるなどの機会があればいいと思います。

委員

コラーレの演奏者が学校へ来てやってくださるという出前講座みたいなものがありますが、とてもいいことだと思います。そういうものに興味のない子どもたちにも芸術や文化的なことに触れる機会となっています。

市長

やはりそのような演奏している人などを見て、格好良くやってみたいとか、感動したと思うようになれば、やがて子どもたちも興味をしめすことになるとは思っています。

委員長

なかなか1度に、というのは難しいとは思いますが、コラーレでそれなりの人が来る時に小学生枠、各学校何人ずつとか、抽選でとか、公平感が問題ですけど、そういうことがあって、「行きたい、行きたい」と言って、感動する機会を用意することも1つの方法だと思います。

市長

モーツァルト音楽祭では、たくさんの若者が、クラシックに関心をもってやっておられます。現在、地元の建設会社さんでやっておられますが、学生などが、格安で練習や合宿をしたり、発表したりする場所が出来ないだろうかということで、新川荘の跡地を活用しようとしております。もう1つは、ある程度の楽器、最低限必要な楽器、特に大きな楽器なども揃えておいてあげなければいけないということです。やはり、大きな楽器を持ってくるのは、持ち運びだけでなく輸送費の面でも大変だと聞いております。

楽器の話になりましたので少しふれますが、今年の名水マラソンのスタートではファンファーレを予定しています。トランペットをはじめとして、競馬の疾走前のイメージで、黒部市歌をアレンジするものです。スタート前にファンファーレが鳴って、ドーンとスタートとする。今までのスタートとは、印象が変わると思います。

委員

話が変わりますが、黒部市出身の俳優で、黒部進さんがおられますよね。その方がコラーレで「ウルトラクッキング」という企画をずっと続けておられますが、県外からも参加者がおられるということです。ウルトラマンが好きな人たちは、世の中にたくさんおられますので、そういったことも黒部のPRになると思います。ブームであちこちにゆるキャラがいろいろありますが、初代ウルトラマンの俳優が黒部市出身の黒部進むさんですので、ウルトラマン発祥の地と言ったらおかしいですが、PRに活かしていくこともよいのではないかと思います。ウルトラマンは根強い人気で、最初の放送から50年以上経っていますが、今も続いています。

市長	ウルトラマンを活用したポスターは、東京に貼ってありますよね。黒部進さんは、本当に協力的で、このポスターは、宇奈月でお風呂に入っていて、その横に怪獣がいるという面白いものです。
事務局	時期は終わりましたが、JRの主要駅舎に80枚程度貼ってありました。小田急線祖師谷大蔵駅に1週間、駅全体をウルトラマンで飾るようなこともありました。ポスターにはバルタン星人やダダ星人も映っています。
市長	それから、3月12日の北陸新幹線開業1周年記念イベントには、黒部進さんと怪獣ピグモンが、黒部宇奈月温泉駅で降りるお客さんをお迎えします。
委員	話題になるとか注目されるというのは非常に大事なことです。
市長	市内のある方が、新幹線の駅前に「どこかの駅前に負けないようなウルトラマンを作ったらいかがですか」と言った方がいました。
事務局	神戸市の長田駅の駅前に、十数メートルの鉄人28号のモニュメントがあります。
委員	記念撮影のスポットになると思います。ウルトラマンのファンは全国にいますから。
委員	お台場にあるガンダムも、大人も含めたファンがたくさん訪れています。
委員	そのようなものをうまく、黒部のPRにつなげていければと思います。
市長	他に何かありますか。特にご発言が無いようでありますので、これで意見交換を終わります。ありがとうございました。
事務局 (学校教育課長)	事務的なことになりましたが、この後、教育大綱が決定いたしましたので、修正点を含め体裁を整えまして公表したいと思います。公表の方法は、市役所での閲覧と市のホームページを予定しております。また、市議会にもお知らせする予定です。来年度以降の総合教育会議の運営であります。年間2回程度を想定しており、予算要求時期、大綱と連動する「教育の方針」の見直し等に合わせた開催が想定されます。 本日は教育の大綱を策定していただき、誠にありがとうございました。以上です。
事務局 (学校教育課長)	最後に委員長から、閉会のご挨拶をお願いします。
委員長	これまで3回にわたり、黒部市教育大綱について、検討、協議を重ねてきましたが、よいものができたのではないかと思います。今後、この大綱の基本理念『未来(あす)の黒部を育む「人」づくり』の実現を目指し、市と連携しながら施策を進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。本日はありがとうございました。
終了時刻	午前11時15分